

令和2年度 晃英館中学校・山口県桜ヶ丘高等学校普通科晃英館コース学校評価書

- 1 学校教育目標
 知・徳・体の調和がとれ、リーダーたる資質・能力を身につけた、国際社会に貢献できる人材の育成
- 2 前年度の評価・課題の概要
 (1) 難関大学現役合格者数と国公立大学の合格者の増加
 (2) 入学者数の増加(中学入試改革)
 (3) 教育目標に向けた、育てたい生徒像、身につけさせたい資質・能力を明確化する。
 (4) 多様性の尊重
- 3 本年度の重点目標
 (1) 難関大学現役合格者数と国公立大学の合格者の増加
 (2) 入学者数の増加(中学入試改革)
 (3) 生徒一人一人を大切に教育
 (4) 多様性の尊重
- 4 自己評価

評価領域	重点項目	具体的取組	評価	反省と課題
第1学年	1. 基本的生活習慣の確立	①挨拶や言葉遣い等の社会に出て通用する礼指導 ②服装、頭髪などの身だしなみの徹底 ③生活ノートへの記入の徹底。忘れ物ゼロ	4	生活習慣、全体としての雰囲気作りが必要。 少数の生徒に、忘れ物と遅刻があった。
	2. 学習習慣の確立	①授業態度やノートの取り方における指導 ②予習・復習を含むPDCAサイクルを日々の学習の中に取り入れることにより、効率の良い勉強を ③提出物の期限前提出の徹底	4	教科によって提出物が出ない者がいたが、3学期には改善が見られた。 低学力の生徒の学力向上に力を入れる。
	3. 円滑な集団行動の確立	①学校行事を通して、集団での動き方を身につける ②道徳や総合の時間を使い、集団での協力性や社会性、積極性を学ばせる。	2	コロナ禍で学校行事が少なく、クラスの団結が難しいが、後半からは改善が見られた。
第2学年	1. 生活習慣の改善	①生活ノートへの記入の徹底	2	休校中のスタディサプリの未確認者がいるなど、全体的な意識が低い。
	2. 学習習慣の改善	①基本的な学力の定着、効率的な学習の促進 ②定期的な学習状況や提出物のチェック	1	書く力がしっかりと身につけていない。教科による学習時間の偏り。睡眠不足による集中力の欠如。
	3. 望ましい集団としての活動・生活	①学校行事を通して、積極的に参加し、協調性を ②周囲を気遣い、集団の一員としての意識を形	2	少ない行事の中でクラスの団結は見られたが、各個人の自立心が弱い面があった。
	4. 進路意識の高揚	①職場体験を通じて、働くことの意義や本質を理解させたうえで、現状の具体的な進路目標を意識させ ②立志式により目標を意識させる	4	コロナにより職場体験は実施できなかった。立志式に向けて、将来についての意識が高まり、発表も成功した。
第3学年	1. 学習習慣の改善	①授業での集中力、積極性の向上 ②空き時間の使い方、休日の予習・復習 ③確実に毎日行える勉強時間の確保	4	授業中は集中して勉強できるようになった。試験までの勉強時間の確保ができていない。提出物が揃わないことがあった。
	2. 生活習慣の改善	①授業と休み時間の切り替え ②落ち着いた言動	5	授業時間と休み時間の切り替えはできるようになったが、休み時間に騒がしくなることが多い。
	3. 大学進学に向けての分理選択	進路実現のため基礎知識を身につけ、文理選択の幅を広げる	2	コロナ関係で大学訪問が実施できず、またオープンキャンパスも行けず大学を知ることが十分にはできていない。
	4. 自主的・主体的な行動の成	①自ら率先して行動に移す ②自らの意思や判断で責任をもって行動に移す	2	自ら率先して行動できる生徒が少ない。高校課程に進むに際して指導が必要。
第4学年	1. 学習習慣の構築	①授業での集中力、積極性の向上 ②空き時間の使い方、休日の予習復習、課題の ③確実に毎日行える勉強時間の確保	4	高校課程に上がり、学業への意識が向上した者が増えた。若干名基礎学力テストの得点が低い。
	2. 生活習慣の確立	①授業と休み時間の切り替え ②休日の過ごし方、安定したリズムの構築 ③落ち着いた言動	4	コロナ関連で家庭学習が増え、個人差が広がった。後半はzoomの活用で対策できた。
	3. 大学進学に向けての分理選択	①職業を見据えた大学進学 ②文理選択による進路の明確化	4	ぎりぎりでの選択変更が出たが、生徒第一で対応した。
	4. 自主的・主体的な行動の育成	①自ら率先して行動に移す ②自らの意思や判断で責任をもって行動に移す	4	生徒主体のクラス運営ができた。日々ストレスのないクラスを維持したい。
第5学年	1. 率先垂範	①自らの行動が後輩への手本となるよう行動する。 ②クラスメイトと協力し、学校行事に取り組む。 ③的確な指示で円滑に物	4	学校行事は少なかったが、クラスメイトと協力し、後輩にも明確な指示を出しながら円滑に進めた。
	2. 現状及び目標との差の	①志望理由書にはっきりと自分の意見を反映させ ②志望する大学・学部と現状との差を認識させ ③自分の課題や改善点を行動に移すよう促す。	4	各自現状を認識し、すべきことを意欲的に取り組んだ。クラス全体の雰囲気はよい。
	3. 学力の底上げ	①中間層の学力を引き上げ、底辺層の生徒への個別指導 ②毎日の学習状況の確認と改善への助言。土日や長期休暇、隙間時間の有効利用	4	上位が中位を、中位が下位を引っ張り上げる形が見られた。生徒自身が個別に対応をとるようになった。

第6学年	1. 至誠通天	全ての事に誠実に取り組み、努力を惜しまない	1	受験を途中であきらめてしまう生徒がでてしまった。最後まで希望を持たせ続けることができなかった。
	2. 最上級生として自覚を持ち、品格ある行動をとる	①最上級生として責任ある行動を心がけるように指導する。また、受験に向けて時間の有効活用を心がけさせるように指導する。	1	時間の有効活用ができず、受験直前で後悔する生徒が多かった。
	3. 志望校への現役合格	受験に挑む学力・体力・精神力を育成すること。個々の学力レベルに応じた適切な個別指導を行う。保護者との連携を密にし、生徒の全面的なサポートを行う。	1	学校(担任)への信頼度を高める必要がある。
教務部	1. 晃英館としての教育活動の深化	各学年にあった指導を徹底し、高校3年生は希望の進路に進めるように、その他の学年は次の学年に進級できるようにする。そのために、教師同士の連携を高め、学校としての指導を教師一丸となって行う。	3	欠点2名、浪人生7名あり、早い段階からの指導が必要である。
	2. 新たな教育課程の検討	2021年度から中学、2022年度から高校での新しい教育課程に向けて、本校のカリキュラムを編成する。	4	「情報」の履修を何年で行うかが、各大学の入試科目の関係で、今後決定の必要あり。
	3. 新しい成績処理システムの運用	新しい成績処理システムならびに、通知表、指導要録、調査書の電子化においても修正を加えながら運用し、より良いシステムを構築していく。	4	新システムへの移行が完了
	4. 各種調査や報告、申請や教科書・副教材などの注文を適切に行う	締め切りなどを管理し、入力内容にミスのないよう適切に確認を行い、事務処理を行う。	4	教科によって成績入力のミスがあったので、注意を促す。
総務部	1. 学校関係行事の適切な運営	①学校関係行事の事前準備の徹底、適切な運営を行う。 ②行事ごとの改善 ③各部、各先生方、生徒間での連携 ④行事ごとへの積極的な取組	4	今年度は学校行事が少なく、改善することができなかったため、次年度は現状でできる行事や方法を考えていく。
	2. パソコンデータ管理の徹底	①データの保存、管理、バックアップ ②ホームページでの行事内容の更新	5	ホームページ更新はできたが、今後発信方法を改善する必要あり。
	3. 清掃・美化の徹底	①清掃指導を徹底、年1度のワックスがけ ②清掃用具の管理(購入) ③清掃時の生徒への適切な指導	4	各教室のワックスがけはできたが、廊下、階段ができなかったため、長期休暇を利用することも視野に入れる。
	4. 防災関係	年間3回の避難訓練を実施(できれば桜高と合同)	2	Jアラートで代用することが多かった。様々な状況での避難経路の確認を徹底。
進路指導部	1. 主体的な進路探究への準備(PDCAサイクルを意識した活動を促進する)(主に1～3年次)	LHRIにおいて大学・学部・学科や職業調べなどを通して進路に対する興味を深め、目的意識を高める。さらに、実際に職場体験を経験し、また大学を訪問しキャンパスの雰囲気を感じることで、高校課程において主体的な進路探究ができるように準備しておく。すべての活動においてPDCAサイクルを意識させ、確立に向けての準備を。その際キャリア・パスポートを効果的に利用する。	3	キャリアパスポートの活用により、定期的に振り返りを行う習慣がついた。しかし、振り返りの意味を理解しているかどうか。また、振り返りの内容を文章で表現できる力の有無によって、PDCAサイクルの完成度に差が生じ、生徒間の差もさらに大きくなる可能性がある。
	2. 新入試の情報収集と進路における主体的活動の実践(4年次)	大学受験前に自分がどのような学力レベルに到達したいのかよく考え、その実現のために高1・高2の時点において何をすべきかをよく考えて具体的な計画を立て、そして実践していくよう指導する。いわゆるPDCAサイクルを回し主体的な活動をする時期であることを認識させる。ボランティア活動など自分が業績として残したいものは早めに計画を立て主体的に動くよう指導する。	3	新型ウィルス感染拡大の影響により、オープンキャンパスなどが中止になり、主体的な入試の情報収集は進まなかった。その中でもPDCAサイクルをうまく回した主体的な学習ができ、成果も出した。
	3. 希望進路実現に向けた効果的な受験指導を提案する(主に5、6年次)	模擬試験の結果を分析し、各分掌・各教科との連携を強化しながら、効果的な対策を考え、職員会議等を活用して全教員に提案していく。推薦入試に関しては全教員で一丸となって推薦希望生徒を支える。	2	多くの生徒がこちらの進路指導に耳を傾けるも、実際は話し合いの結果とは異なる行動をとっていた。推薦入試に関しては生徒との意思の疎通もうまくいき、予想以上の良い成果を収めることができた。
	4. 中2、3の基礎学力向上	Z会アドバンス模試において明確となった基礎・基本力不足を解消すべく、担任を中心として主要5教科教科担当が共通の目標をもって取り組む。4月初旬に学年会議等を開催して課題・目標を共有し、定期的に振り返りをしながら学力の向上につなげる。3学期アドバンス模試において3教科学年偏差値を昨年度より大きく上昇させることをめざす。	1	学年会議を開催したかったが、新型コロナのため頓挫してしまい、全教員が共通理解した的確な目標と計画による指導ができなかった。Z会アドバンス模試においても成果が出せなかった。
	5. 新入試・新学習指導要領(高校)の情報収集と対応並びに6年間の進路計画の見直し	新入試と新学習指導要領に素早く対応すべく全教員で情報収集と分析をしていく。そこで得た情報を基に議論を重ねながら新入試と新学習指導要領に適した6年間の進路カリキュラムを創り直していく。中学課程は「PDCAサイクルの確立」を目標とし、そして高校課程では「アクティブ・ラーナー」を育てることを基本方針とする。	4	進路指導目標と計画を策定できたので、次年度はこれを運用する。
生徒指導部	1. いじめなどの問題行動をゼロにする	①生徒の状況確認やアンケートを活用し、担任と連携を密にして迅速な対応を行い、問題解決を ②ネットパトロールを活用し、ネットいじめ対策 ③必要に応じて携帯電話の講習会などを実施。	4	小さなトラブルはあったが大きな問題にはなっていない。

	2. 生徒会の組織・運営	①生徒会と委員会が活動するにあたり、自主的かつ主体的に運営できるように指導を行う。 ②委員会の業務、生徒会組織の見直し、再編を検討する。	2	半分近くの学校行事ができなかった。1年間のプランクで、生徒会活動がうまく受け継げるのか心配である。
	3. 部活動への積極的参加	①部活動への加入者の増加と定着を図る。	4	1年生の7割が部活動に参加。新しい同好会を作ろうとする動きもある。
	4. 自転車等による交通事故をゼロにする	①交通委員を通じて、自転車の施錠・交通安全の啓蒙等を行う。 ②交通安全教等を活用して、生徒の交通安全に対する意識を高めるとともに、マナーの向上を図る。	4	交通安全教室がコロナの関係で早期に実施できず。交通事故が数件発生したが、昨年よりは減少。
	5. 精神面・行動面での成長を図る	①挨拶の励行 ②正しい言葉遣いや行動、服装・頭髪の指導 ③ボランティア活動、花の栽培等を通じて心の育成を図る	4	服装の指導があまりできていない。特に名札指導など、細かい指導ができていなかった。
入試 広報部	1. 入学者数の増加 ①学校説明会参加者の増加 ②入試説明会・学習会参加者の増加 ③受験者の増加	①学校内部の取組の評価を上げる ②イベント参加者増加につながるアピール	2	微増。引き続き、地道に取り組み、評価を上げていく。コロナの状況下では厳しいが、イベント参加者の増加につながる企画・アピール等を考えていく。
	2. 学校説明会・入試説明会・学習会の円滑な運営	①開催内容の反省と次回に向けての改善・再検討 ②在学生が関わる機会の充実 ③学校見学会・入試説明会への在校生の参加	4	桜ヶ丘とは別日程にする。説明会はすべて予約制だったが、事前に参加者が把握できてよい。
	3 広報活動の充実	①年間を通して使用可能な効果的な広告やチラシの作成 ②周南市役所・徳山郵便局DSの利用 ③広報ツール活用の再検討	5	周南市役所DSは非常に目立つ分、時期に応じて適切な広告を出す。小学校等に配布するチラシは複数回のほうがよかった。
	4 桜ヶ丘との連携	①予算を含め、効率よく行えるところは協力して行う ②塾訪問・説明会の共同実施 ③募集要項の共同作成作業	1	お互いの話し合いの機会があまり持てず、お互いの歩み寄りができなかった。一緒にやるところ、分けるところの線引き
図書 委員会	1. 資料室の管理・運営	①図書委員会を中心に資料室の管理・運営 ②図書の貸し出し等を行うことができる環境を整備する。	1	図書委員任せとなり、かかわりを持つことができなかった。PCを使った貸し出し。企画コーナーを作る。
	2. 学校図書の選定・購入拡大	①総合学習に必要な資料となる書籍を中心として、図書の購入を行う ②アンケートを通じて、図書の購入と充実を図る	4	先生方や生徒へのアンケートを通じて良書の選定はできた。
国際交流 委員会	1. 2020年度海外研修は中止	コロナのため早い段階で2020年度の海外研修の中止を決定		
	2. 目的に沿った効果的な海外研修の立案と計画(2021年度)	①英語の運用能力を高めるだけでなく、与えられた課題に対して生徒が話し合い、協力して問題を解決できるような活動を考える。 ②学んだことや自分の考えを表現できるような機会を与える。	4	2020年度の海外研修が中止になったため、高1・高2の国内語学研修を2021年度に計画。旅行業者との連携を図り、目的に沿った立案はできた。

達成できた…5 概ね達成できた…4 ある程度達成できた…3 達成が一部にとどまった…2 達成できなかった…1

5 学校関係者評価

- (1)学習指導については、コロナでの全国一斉休校等による休校の期間が長く、リモート授業などを取り入れたが、不慣れなこともあり対面授業ほどの成果は上げられなかった。
- (2)休校中の課題、連絡、検温などスタディサプリや安心安全メールを使用し、大きな支障はなかったが、生活のリズムが乱れた生徒が多かった。
- (3)生徒一人一人にあった個別指導の充実をさらに行ってほしい。
- (4)大学入試での推薦入試の基準などで問い合わせ。「合格の可能性のある生徒」を推薦することを確認。

6 学校評価総括

- (1)、「アドミッションポリシー」「育てたい生徒像(資質・能力)」を基とした各部署の目標を明確にした。
- (2)個別指導や面接、小論文指導など多くの人間関わったことで、推薦で岡山大・鳥取大・山口東京理科大への合格を果たした。
- (3)働き方改革の導入による学校業務への影響は大きいですが、勤務時間を管理しながら個別・集団指導にあたった。
- (4)入学者数については、受験者数は微増したが入学辞退者が増えた。(成績1番の受験生も)
- (5)常勤教員が少なく、他の部署も兼ねているために一人の教員の仕事量の負担が多い。求人難から最後は員数合わせになってしまう。教員が定着しないことへの保護者の不安。長期を見据えた採用計画が必要。
- (6)コロナの影響で多くの学校行事が中止になる中、生徒会が積極的に活動し、コロナ対策を考えた内容を企画してくれた。

7 次年度への改善項目

- (1)入学者数増加のための効果的な募集活動の検討・入試改革(推薦入試・オープンスクール・イベント)
- (2)ICTを有効活用した授業の展開
- (3)生徒一人一人に寄り添った指導(教科・進路・生活)
- (4)指導力のある教員を増やし、生徒の個別指導に対応し、進学実績を上げる。
- (5)新入試や新学習指導要領、学校の教育目標に対応した高校カリキュラムの見直し、教科書選定